

(ちの地区) 財政・市政運営について

意見要旨	説明・回答要旨
9月17日の新聞記事で、県内自治体への消滅危機感についてのアンケートで、73%の自治体は危機感があるとの回答であったが、4市町村だけ危機感がないということで、その一つが茅野市だった。その回答の趣旨はどういうことか	(市長) 先ほどお話した「しあわせを実現できるまち」をやり遂げ、茅野市には必ずやり遂げることができると思っているからである。
スライドの8ページ目の、これからの行政に必要な事、ソフト重視の行政サービス提供体制への転換、財政の柔軟性の確保が必要とあるが、具体的な考え、方針等はあるか。	(市長) はっきりした話ではないが、今までの茅野市のまちづくりは、例えば市民活動であれば活動拠点をしっかり整備するやり方だった。コミュニティセンターは10地区すべてにあるが、現状では人手不足により職員の配置が難しい。なので、そういったものの考え方を変えていかなければならないと認識しているところ。
我々も地区としてできること、今までのやり方の見直しを進めている。ちの地区は7つの区があり、規模の大小があるためそれぞれの区で解決できない課題もある。例えば消防やごみは市が進めているが、地区全体でそういったものを担った方が経費節減等になっていき、人材も限られる中で助け合える形を作る必要はあると思う。そういったことも含めてコミュニティセンターのあり方も市が一緒になって考えてもらえるということによいか。	(市長) 仕組みを変えていくにも、地区によって色々なやり方があると思う。各地区に合った仕組みを一緒に作り上げていくことが必要だと考えている。

(ちの地区) 地区の防災について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>先日城山地区が当番区でちの地区の防災訓練を行ったが、城山地区の特徴として人口約500人のうち3分の1が75歳以上になる。仮に、市から避難指示が出たとしても、免許を返納しているなど自力で避難できない人が徐々に増えてきている。城山区の事情は他の区より5年～10年先行しているかと思う。今回は市からも1台車を出してもらったが、実際の災害時は足りないと思う。災害時、市の中でどうするかというビジョンをもう少し俯瞰的に示していただき、大きい組織なので職員を機動的に使ってほしい。コミュニティセンターの統廃合など経済的なことを言われると非常に厳しいことは分かるが、地域の実情を見て慎重に進めていただきたい。</p>	<p>(市長) 今、市の職員が正規と会計年度任用職員併せて1000名以上の体制で市行政を行っているが、それでもなかなか人手が足りない状況が現実である。ただ、地域の防災面の不安は切実な問題であると思う。市では、個別避難計画の基礎作りをしており、各区ごとに障害を持っている方、1人で移動が困難な方について、一人ひとりの避難計画を策定しようと、動き始めている。来年度くらいから少し具体的に見えてくると思うので、ご意見をいただければ幸いである。</p>

(ちの地区) 財産区について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>市長に財産区の問題についてお聞きしたい。私はこの生まれではなく、よそから来た。そういう中で、地域の特性や自然環境を守るなどの財産区のメリットがあると思う。先ほど交流拡大だとか市外から来た人を迎えるという部分を強調していたが、財産区は豊かな財政を持っていて、環境を持っていて、ということを目にして、地元の人だけで固まって実際に市外から来た人を仲間に入れてくれないという部分がある。実際、財産区がこのままの状態を維持していったほうが良いという考えなのか、市の考えを聞きたい。</p>	<p>(市長) まず、「市でどうできるか」という問題がある。財産区は特別地方公共団体であり、東京の23区と同じ存在ということになる。なので、市で指導できない部分がある。最近の茅野市の財産区は、決しておっしゃるような状況だけではなく、これからの財産区はどうあるべきかということも財産区協議会などで勉強しているところ。例えば、この森林を未来に向けて子どもたちに伝えていくのが役割ではないか？という議論も始まっている。</p> <p>(地域創生政策監) 私も茅野市出身ではなく、県を退職して茅野市に来た。財産区は江戸時代に豊かな山の資源を管理する重要な役割を果たし、その後観光ブームで、財産区の承認があれば開発が進められるということで、財産を守るため、収益を上げるという変遷をたどった。ただ、現在は収益を上げるには難しい局面に来ている。これからの進め方としては、森林整備を行いバイオマス発電に充てている財産区や、山の手入れのために入区すると財産区にも入区する制度にする区も出始めている。本日市長がご説明したように、苦しくても誇り高く頑張るのか、苦しい時に人手を借りて新しい用途で収入を得ながら森林を守っていくのか、今が変化の時だと思う。皆で知恵を出し合いながら行政も一緒になって財産区の新時代を開けるように支えていきたい。</p>

(ちの地区) 入区について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>本日のスライドの13ページに、「歳入の確保、歳出の削減」とあり、市長の説明からも、財政が厳しいとの話があった。これはやはり入りを増やさないといけないということで、歳入の確保、産業の活性化や企業誘致、観光客を対象とした新たな税の導入検討と書いてあるが、歳入の確保は基本的に固定資産税を上げるか、市民税を上げるしかなく、市民を増やすという意味で入区条例が茅野市には必要ではないかと思う。区に入ってもらい、区行政に携わってもらいたいのがギブアンドテイクだと思う。市民になって区は入らないがゴミは出す、区の役も受けませんでは、区の財政から見ると問題がある。入区条例は難しいところもあるかと思うが、再度チャレンジが必要ではないかと思う。</p>	<p>(市長) おっしゃることはよくわかる。ただ入区条例は難しいと私は思っている。条例を作っても、罰則規定が無ければ、皆さん無視して終わってしまう形になる。昨日中大塩地区でもこの話があったが、やはり災害時に区に入っていて良かったと思われぬようにしていくのが大事かなと思う。ちの地区は防災について熱心に取組まれているので、そこに突破口があるのではないかと考えている。</p> <p>(副市長) 入区条例については、市長がお話したとおり罰則規定を設けられず、入区した方の専任条例になってしまうのでなかなか効果がない。やはり区に入ってもらいたいということは、防災を起点として隣組も含めて支え合う組織を作ることによって安心を産み、それを呼び水として区に入ってもらいたい、そんな趣旨である。宮川の高部地区の場合も近所の声かけがあつて全く被害を出さずに終わった。そんな事例を含めて入区の機運を高めていけたらと考えている。</p>
<p>このように考えたのは、昨年区長をやってみて、区の財政も厳しくなる中高齢化も進み、どんどん区の収入が減っていく中で、移住して来ても区の役が嫌だから区には入らず、でもゴミは出したいという方がいたから。副市長が言ったように防災で区に入らなきゃ困るといっても、実際経験しないと人間は動かないと思うし、人の好意に甘えて自分は特別なのだという人が多すぎると感じている。なので区に入ってもらいたいのが大前提で茅野市に移住してもらい、その代わりにサービスを提供して移住者がどんどん増えていって茅野市は本当に住みやすいのだということになる。やはり、入区を良しとする移住者がいて、同じ気持ちの人が集まって来ることが必要だと思う。入区条例について、罰則があつた方がよいかはもう一度市民に問かけてみる機会はあつた方がよい。市議会議員の皆さんも、質問だけでなくその先の提案までしていただき、発想の展開や発案力を培ってもらいつつ、考えてもらいたい。</p>	<p>(市長) お気持ちは承った。茅野市に転入されて来た際には、市役所でも入区のご案内はさせていただいているので、もう少しプッシュするよう頑張りたい。</p>

意見要旨	説明・回答要旨
<p>課題1</p> <p>【アパートのごみ収集について】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・昨年に引き続きの課題。市の方でもごみの出し方の手引きの全戸配布、外国人向けの作成など手を打っていただいているが、特に子どもを含めてのごみの出し方について一緒に考える機会を学校や家庭で積極的に行っていただきたい。</li><li>・区の環境の仕事をさせてもらっているが、「こんなにマナーが守れない住民が多いのか」と実感した。一番大変だったのが3月4月のアパートの入れ替えの時期である。私の車では持っていけないくらい回収できない袋があり、会社を休んで清掃センターに持っていった。ごみステーションに看板を作っても守ってもらえず、お金をかけても意味がないと感じた。小学1年生が学校の登校中にゴミを拾い集めたり、そういった姿をマナーの悪い人に見せるなど考えていかななくてはならない。また、道路わきに草がたくさん生えているとそこにごみを捨てる人がいるが草を刈ったところはゴミがない。こういったことも区でやるととても大変なので市でも考えてもらえるとありがたい。孫がある日ゴミ拾いをするとマスクやタバコを沢山拾って来た。やはり小学生や小さな子の方がマナーを守っていて、学校でも気を遣って頑張ってくれているなど感じた。そして、大人がマナーを守れないというのは子どもに対して恥ずかしいので、これからも子ども達にそういった知恵をつけてあげてほしい。</li></ul>	<p>(美サイクルセンター長)</p> <p>昨年のまちづくり懇談会でもこの案件についてはご意見をいただいている。その後の取組について少しお話をさせていただく。先ほどご説明いただいたが、家庭用のゴミの分け方を配布させていただいたり、外国籍の方に向けたリーフレット冊子等も作成した。転入者で日本語が分からない方への周知不足を解消するものである。また、ごみステーションに混在ごみとして残されているごみについても実態調査し、ちの地区は大変数が多かった。アパートに混在ゴミが多い傾向があると見てとれたため、アパートにごみの分別をお願いするリーフレットをポスティングした。アパートの管理会社にも入居者への周知状況を確認し、改めて、今お住いの方に分別を周知してくださいという依頼を出している。また、市のホームページに特設サイトを作り、ごみの分別の仕方を検索しやすくし、自分で情報を取りに来る方には情報発信ができていくという状況。成果については、収集運搬業者に聞いた範囲では多少効果があったところと、そうではないところがあった。今後も昨年と同時期に調査をし、取組の成果があったのかを確認し、調査結果を見て考え方を検討したいと思っている。</p> <p>(市長)</p> <p>スピード感がなくて申し訳ないが、調査をして、やはり皆さんの言うとおりのアパートからのごみが1番多いことがはっきりしてきている。マナーを守っていただけるように、根気のいる仕事にはなるが、状況によっては市も直接関わっていく必要があると考えている。そのためには予算がどのくらいかかるかといったことを精査して方向性を見定めていきたいと思っている。</p> <p>(教育長)</p> <p>ごみの問題については、小学生がゴミ袋にビンやカンを捨てて歩いている。昔は子ども達が学校帰りに捨てたマスクに沢山お叱りの電話がきた。今は、ごみステーションに行くと下手をすれば鉄の塊まで入っている。そんな中、子ども達は市独自の環境絵本を始め、マイクロチップ等のことまで含めたテキストで勉強している。例えば学校給食や食育であれば保護者の方と一緒に勉強し、子どもと一緒に保護者も勉強している。そこが欠けていたのではないかと思う。環境教育について子どもと一緒に大人も勉強してもう一度捉えなおしていく機会を作っていく必要があると思う。</p>

(ちの地区) 地区の課題について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>・実際にごみを捨てるのは大人である。出たものをどこに捨てて良いか分からないのが根本的な原因だと思う。この間、農薬の容器が土手に捨ててあったが、捨てる場所がなくて困っているのでは。資源物の収集は朝6時半から7時までと早く、買い物に行く時間に捨てられる場所やスーパーでの回収もほぼなくなった。なので、買い物ついでに捨てられるような体制ができれば、もう少しごみが減るのではと思う。</p>	<p>(美サイクルセンター長) 大型店で行っている資源物回収は、店舗駐車場のかなりのスペースを取られてしまうため、これまでのような収集は難しくなった。いつでも捨てられる場所については、民間の24時間収集している場所もあるが、実際には処理に困るものを不法投棄されてしまうという話も聞いている。先ほどの農薬については清掃センター、リサイクルセンターでは取り扱えないものなので、市にお問い合わせいただければ民間の処理事業者をご案内する。</p>
<p>課題2 【各区活動の持続可能性について】 これも繰り返し行われている議論である。私見を交えてお話すると、役員世代の40代の方の数が激減したわけではないはず。役員の成り手不足は関心を持たない方と、一生懸命にやる方との差が大きくなっているだけなのだと思うが、区の役員さんには非常にご苦勞をいただいている。例えば回覧版も非常に枚数が多いので、必要ある物とない物を分け、他のメディアを使うことも含めて考えていただきたい。役員の成り手不足については、苦痛だからやりたくないというのが要因かとも思うので、それぞれ区の悩みを皆で受け止め、知恵を出し合って解決できる部分もあると感じる。</p>	<p>(市長) 確かに役に対する認識がかつてに比べて大きく変わってきている。やはり、地域を皆で支えていこう、良くしていこうという感覚よりは役がきそうなので外に引っ越す人が結構見受けられる。</p> <p>(パートナーシップのまちづくり推進課長) 区の役の担い手不足問題は、今年のまちづくり懇談会でもほとんどの地区から課題として出されたものであった。それを受け、市でも今年の2月から、区・自治会役員等の負担軽減、担い手不足への取り組みを始めたところである。先ほど運営協議会会長から、原因として高齢化や人口減少だけではないのではというお話があったが、まず市からの依頼事項の「広報ちの」の回覧、募金、市の組織団体への参加、区・自治会の役職業務運営方法などについて皆さんと一緒に見直し検討を進めていきたいと考えているところである。</p> <p>(DX推進課長) 各区の関係の回覧版について、実証調査としてアプリを使って連絡をさせていただき取組をする。また調査の結果が出て、他の区にも活用いただけるような状況であれば、ご案内をしていきたい。</p> <p>(市長) 新しい取組みをはじめ、紙媒体でなくても、アプリで受け取っても良いという方々は増えていくと思う。その分岐点がどこになるかは分からないが、残りは郵送で対応したり、試験的にやって塩梅を見定めて行く必要がある。担い手不足については各区でも色々考えてもらっているのでそうしたものを集約して良いものを取り入れていきたいと考えている。</p>

(ちの地区) 地区の課題について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>課題3 【子どもの通学路について】 永明小学校、永明中学校の建替え工事が、道路整備にも及んでいる。その関係で通学路が毎日のように変更になっており、安全性や低学年の登下校について危惧している。ぜひ安全な通学環境の確保を考えていただきたい。</p>	<p>(学校教育課長) おっしゃるように通学路の状況はめまぐるしく変わっている。道路工事の発注をする建設課や水道課と打ち合わせをしながら、学校の職員、状況によってはPTAの方々にも出いただき朝の登校の時間に見守りをしていた状況があったかと思う。なお、これから周辺道路の様相が大きく変わっていくが、これまで以上に安全な歩行空間を作っていくべく工事を進めていき、先ほどの対応を引き続き行いたいと考えているので、ご理解とご協力をお願いしたい。</p>
<p>・通学路の問題は切実である。回覧版で回ってきても工期が長いため、いつ通行止めになるかほぼわからない。市のホームページなどで出してもらえると助かる。また、量が多い通知等は、希望する人が勝手に見られるような形にすれば、見直したい情報のある場所もわかりやすくなり、回覧の廃止・簡素化・役員の負担軽減につながるのでは。</p>	<p>(学校教育課長) 小学校においては、メール一斉配信のサービスでオクレンジャーというものがある。保護者の方に、言葉に加えて地図を添付して、通行止めの場所を配信している。中学校においては変更になった部分をお便りでその都度渡している。</p> <p>(DX推進課長) 回覧について、「広報ちの」など行政から出るものについてはホームページで過去のものを見ることができる。今試験的に、区独自の連絡をする時にデジタルを使って見る、というシステムを考えているところである。</p> <p>(市長) ホームページ上では深いところに情報があつたりはするが、PDFで見られるようになっていく。LINEに登録していただくと、最新の情報を受け取る事ができるので、ぜひ登録をお願いしたい。</p>

(ちの地区) 水路の整備について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>令和2年に、市の水路調査を一斉に行ったと聞いている。今年の春先に大雨が降った時、下水処理が間に合わないので水を流す量を調整してくださいという様なことがあり、2、30年前は下水設備がなかったため近場の河川にそれぞれの生活用水なり排水路に雨水を流していた。下水が整備されても水路はそのまま残っていてかなり傷んできている。</p> <p>このところの異常気象で、水がかなり増えてきている。</p> <p>特に横内区と上原区については、旧国道を境に西側に向かって非常に急勾配になっており、上原地区は2回ほど水没している。昔からある水路がだいぶ傷んできており、これから川の氾濫による水害が出てくるだろうことは確実に予測される。そういう意味で、令和2年に調査が入った後、生活用水路、農業用水路を含めてどのように整備をしていくのか。財政が厳しい状況であるとは思いますが、水害があってから直すとさらにお金がかかると思うので、今一度水路の点検もしくは改修工事を進めていただきたい。</p>	<p>(副市長)</p> <p>特に下水道でそういった雨水排水の調査等を行っている。平成の中ごろに、塚原線都市計画道路、市役所の下の不二家さんから仲町へ抜けるところで、雨水排水という形で上川へ抜けているものがあるが、最近はそれだけでは排水できなくなってきた。都市化が進んでいる中でゲリラ豪雨になると上原区へ水が溢れてしまうことがあったため、排水区域等を作っている。また、小江川も来年度ポンプ増設により水が抜けるようになる。そういったことで上原区の皆さんを安心な状態にさせたいと思うが、早い段階で水門を閉めることも大事だと思う。ただ、もう1本塚原線より上部のところへ下水道の汚泥を上川へ抜くようにしないとおそらく排水ができない。事業費や調査が必要だが、最終的に市街地全体の雨水計画をしっかりと立てて対応していきたい。</p> <p>(市長)</p> <p>特に上原区の皆さんには大雨が降るとご心配をかける事が多く申し訳ない。下水道もかなり老朽化が進んでおり、不明水といって雨水が侵入してしまうことがある。そういった下水道管の入れ替え時期にも来ているという認識で、しっかり整備をするためにも行革を進めて行く必要がある。</p>



(ちの地区) その他

意見要旨	説明・回答要旨
<p>社会福祉協議会の結婚相談員をやっている。未だに結婚実績がない。社会福祉協議会の結婚相談は何十年も同じことをやっていて実績に繋がっていないので、市のの方でもう少し補助していただけたらと思う。そのあたりの考えをお聞きしたい。</p>	<p>(市長) 私は社会福祉協議会の会長でもあるので、なかなか実績が上がらないということで申し訳ない。婚活は広域連合でもやっているが、課題であると感じている。社会福祉協議会のやり方がまずいということについては、また後で具体的にお話をいただければ、伺いたいと思うのでお願いしたい。</p>